

椿姫 (La Traviata) あらすじ

主な配役

ヴィオレッタ・ヴァレリー	ソプラノ	パリの高級娼婦
アルフレード・ジェルモン	テノール	パリに暮らすプロヴァンス地方の貴族の息子
ジョルジュ・ジェルモン	バリトン	アルフレードの父親(プロヴァンスの貴族)

第1幕

パリ。ヴィオレッタの家での夜会

夜会を主催するヴィオレッタに、ガストーヌ子爵がアルフレードを紹介する。

ここで、有名な乾杯の歌が歌われる。

アルフレードは街でヴィオレッタを見初め、恋に落ちる。

そのことをヴィオレッタに告白するが、ヴィオレッタは「私は恋とは無縁」と

取り合わない。しかし、アルフレードに胸に着けた花を渡し、その花がしおれたときにたずねるように言う。

夜会が終わって、客が帰り、一人になったヴィオレッタは不思議な感情に襲われる。

そこに、かすかにアルフレードの歌声が聞こえ、ヴィオレッタは当惑し、アルフレードへの思いを打ち消そうとする。

ここで歌われるのが有名なアリア、「ああそは彼の人か…」「花から花へ…」である。

第2幕

第1場 パリ郊外。ヴィオレッタの家

夜会から数ヶ月がたって、アルフレードとヴィオレッタはパリ郊外の田舎で、二人で暮らし始める。アルフレードは、二人で暮らす幸福を歌う(アリア、パリを離れて…)しかし、アンニーナからヴィオレッタが生活のために家財道具を売りに行ったことを聞き、1000ルイを自分で調達しようと出てゆく。帰ってきたヴィオレッタはアルフレードがパリに行ったことを知る。そこへ、アルフレードの父親、ジョルジョ・ジェルモンが尋ねてきて、娘の結婚にとって、アルフレードとヴィオレッタの交際が邪魔になるので、分かれてほしいとヴィオレッタに頼む。ジョルジョがあまりに熱心に頼むので、ヴィオレッタは、分かれることを承諾し、自分が如何にアルフレードを愛しており、ジェルモン家のために身を引くことをアルフレードに伝えてほしいと頼み、アルフレードの別れの手紙を書く。帰ってきたアルフレードに愛を確かめて、ヴィオレッタは出てゆく。そのあと、ヴィオレッタか

ら、アルフレードに別れの手紙が届き、アルフレードは半狂乱になる。そこへ、父親があらわれ、有名なアリア「プロバンスの海と陸」を歌い、田舎に帰るように言うが、アルフレードは聞かず、ヴィオレッタが友人のフローラの夜会にいったことを知って、ド・フォール男爵のもとに走ったと勘違いし、追いかける。

第2場 パリ。フローラの家での夜会

フローラの夜会では、アルフレードとヴィオレッタが分かれたことが既にうわさになっている。そこへアルフレードが現れ、トランプの賭けに挑戦し勝っている。そこに、ド・フォール男爵につれられてヴィオレッタが現れる。ヴィオレッタは動揺し、アルフレードは恋に負けたので、賭けに勝つと勝負を続ける。ド・フォール男爵が相手をするがアルフレードは勝ち進む。ヴィオレッタはアルフレードにその場を立ち去ることを勧め、ド・フォールを愛していると嘘をつく。アルフレードは人々を集め、ヴィオレッタの心変わりを打ち明け、彼女に借りたお金を返すと言って、賭けで勝った紙幣をヴィオレッタに投げつける。この乱暴な行為に、人々はアルフレードを非難する。そこにジョルジョが現れ、彼を激しく非難する。ド・フォールはアルフレードに決闘の申し込みをする。

第3幕

パリのヴィオレッタの家。既に抵当に入っている。

ヴィオレッタは結核で病床にあり、もう余命がほとんどないことを知っている。アンニーナが、看病している。アルフレードは決闘でド・フォール男爵を傷つけ、外国に逃げている。ジョルジョからの謝罪の手紙が、ヴィオレッタの楽しみとなり、何度も読み返している。外からはカーニバルのにぎやかな音楽が聞こえる。そこへ、アンニーナから、アルフレードが帰ってきたことを告げられ、ヴィオレッタは喜びに満たされる。アルフレードがあらわれ、二人は固く抱擁する。そこにジョルジョも現れ、二人を引き離したことを後悔する。しかし幸せな時間も短く。ヴィオレッタは苦しみが消えたことを喜びながら息絶える。